

グリーンインフラを活用した雨水流出抑制対策の強化について

近年の気候変動により増加傾向にある豪雨災害から区民の生命や財産を守るため、流域治水の取組が重要となっている。

そこで、自然環境が有する多様な機能を活用し、地域課題に対応していくグリーンインフラ（以下「G I」という。）の活用について検討を行う。

5月20日にG Iを活用した流域治水の取組の推進について、専門家との連携協定を締結しましたので、連携協定を活かした今後の取組について報告します。

記

1 流域治水の取組に関する連携協定の締結

(1) 締結相手

「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点

プロジェクトリーダー 島谷 幸宏

(2) 締結の主な内容

- ① G I など流域治水の取組の検討等に必要な基本情報等の共有
- ② G I などに関する住民への周知や対話の場等への講師派遣
- ③ G I の取組の検討や実施に必要な技術的助言などの協力

(3) みんなで「知ろう」G I

G I について、専門家による説明機会の設置

2 今後のスケジュール（予定）

- 4月～7月 G I の活用に関する検討支援業務公募型プロポーザルによる、支援事業者の選定
- 7月 みんなで「知ろう」G I
- 9月～2月 グリーンインフラ推進会議（G I の活用を推進するため、区民等との意見交換の場を設ける。）3回開催